様式第3号(1)

医学的意見書 Ⅱの I

肢体不自由の状況及び所見

	医	学	的	意 .	見	書				(肢体	不自由用	∄)
氏	;	名					・昭和・令和		年	月		日生
住	. j	所 埼.	玉県春日音	B市								
1 5	章 害 : 部位を明	名===)										
	京因とな	· ·					交通、党	労災、その	つ他の事	故、戦傷、	戦災、自然	 淡害
兆	笑病・外4	傷名					疾病、先	き天性、そ	その他()
3 %	実病・外1	傷発生年月	月日		年	月		日・場	ᇑ			
4 \$	参考とな	る経過・現	見症(エッ	クス線写	写真及び	検査所見	を含む)					
				[-	障害固定	又は障害	確定(推定)		年	月	日
5 [章害認定	所見							程度(級相当	当)
						軽度		る将来す		要		不要
6 2	その他参:	考となる食	今併症状				(.	再認定の)時期	年	月後	
		, = 0.0.										
	期	間	入院	日間	引・通防	Ī	日間	(回)			
更	事前	検 査										
生		•										
医	具体的方針											
療	効	果										
	新	名 称										
補		•										
装	再	処 方										
具	•											
	修	効 果										
=r												
所												
						医療機関						
見						所 在 診療担当						
		年	月	日	Ē	୬ 7京 12□ 3	コ 17 十					

神経学的所見その他の機能障害(形態異常)の所見(該当するものを○で囲み、下記空欄に追加所見記入)

1. 感覚障害(下記図示):なし・感覚脱失・感覚鈍麻・異常感覚

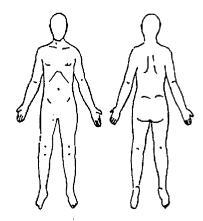
2. 運動障害(下記図示): なし・弛 緩性まひ・痙性まひ・固縮・不随意運動・しんせん・運動失調・その他

: 脳・脊髄・末梢神経・筋肉・骨関節・その他 3. 起因部位

4. 排尿・排便機能障害 : なし・あり

: なし・脳・脊髄・四肢・その他 5. 形態異常

参考図示



▼変形 切離断 ‴‴ 感覚障害 ∷∷∷ 運動障害

(注) 関係ない部分は記入不要

(1)

右		左
	上 肢 長cm	
	下肢長cm	
	上腕周径cm	
	前腕周径cm	
	大腿周径cm	
	下腿周径cm	
	握 力kg	

6. 歩行能力の程度 (m)

7. 起 立 位 (分)

位 (可 · 不可) 8. 座

9. 動作・活動 自立—○ 半介助—△ 全介助又は不能—×、

()の中のものを使う時はそれに○

寝返りする	シャツを着て脱ぐ
足を投げ出して座る	ズボンをはいて脱ぐ (自助具)
いすに腰掛ける	ブラシで歯を磨く(自助具)
立つ(手すり、壁、つえ、松葉づえ、義肢、装具)	顔を洗いタオルでふく
家の中の移動(壁、つえ、松葉づえ、義肢、装具、車いす)	タオルを絞る
洋式便器に座る	背中を洗う
排せつの後始末をする	二階まで階段を上って下りる (手すり、つえ、松葉づえ)
(はしで) 食事をする (スプーン、自助具)	屋外を移動する(家の周辺程度)(つえ、松葉づえ、車いす)
コップで水を飲む	公共の乗り物を利用する

注:身体障害者福祉法の等級は機能障害(impairment)のレベルで認定されますので()の 中に○がついている場合、原則として自立していないという解釈になります。

- 注1 上下肢の欠損の場合は、欠損部が上腕、前腕、大腿又は下腿のそれぞれ1/2以上であるか否か を明記すること。
 - 2 指の欠損の場合は、各指骨間関節(IP、PIP、DIP)の残存の有無を明記すること。
 - 上記6・7・8の部分については、補装具、つえ等を使用しない状態で記入すること。 3

計測法:

上 肢 長 : 肩峰→橈骨茎状突起 前腕周径 : 最大周径

下 肢 長 :上前腸骨棘 (脛骨) 内果 大腿周径 : 膝蓋骨上縁上10 c mの周径 (小児等の場合は別記)

下腿周径:最大周径 上腕周径 : 最大周径

関節可動域(ROM)と筋カテスト(MMT)	(この表は必要な部分を記入)			
筋カテスト関節可動域	筋力	テスト	関節可動域	筋力テスト	
1 1	1	, 1	Ţ	1	
() 前屈		ディ 質 () 左屈	90 60 30 0 30 60 90 120 180	右屈 ()	
		┃ 本 ┃() 左屈 伞 ┃		右屈 ()	
右	7	1	左		
() 屈曲 () 外転 () 外転 () 別 () 回外		() 伸展 () 内体 () 内版 () 回 () 回	90 60 30 0 30 60 90 120 180 180	屈曲 () 外転 () 外旋 () 屈曲 () 回外 ()	
	背屈 ()	手 () 背屈		掌屈 ()	
() 屈曲 () 屈曲	伸展 () 中展 () 京 ()	丘立() 伸展() 伸展() 伸展() 伸展	90 60 30 0 30 60 90 120 130 130 130 130 130 130 130 130 130 13	屈曲 () 屈曲 () 屈曲 () 屈曲 () 屈曲 ()	
	—	ウ () 伸展	/JS	屈曲 ()	
() 屈曲 () 外転 () 外旋 () 屈曲 () 用曲	内旋()	Y () 伸展 () 内転 () 内旋 () 伸展	90 60 30 0 30 60 90 120 130 180	所属曲 () 外転 () 外旋 ()	
() 底屈	背屈()	と () 背屈		底屈 ()	
備考					
注: 1. 関節可動域は、他動的可動域を原則とする。 2. 関節可動域は、基本肢位を0度とする日本整形会、日本リハビリテーション医学会の指定する表とする。 3. 関節可動域の図示は、	示法 二太線を 直肢位	 △印は、筋力半減(筋力3該当) ○印は、筋力正常またはやや減(筋力4.5該当) 5. (PIP)の項母指は(IP)関節を指す。 6. DIPその他手の対立内外転等の表示は必要に応じ、備考欄を用いる。 7. 図中塗りつぶした部分は、参考的正常範囲外の部分で反張膝等の異常可動はこの部分にはみ出し記入となる。 例示 (×) 供属 (×) 供属			